

平成 29 年度 二宮町ごみ減量化推進協議会 会議記録

日 時：平成 29 年 11 月 27 日(月)

午後 1 時 00 分～午後 2 時 30 分

場 所：二宮町役場 第 1 会議室

出席者：高橋委員／野原委員／浅田委員／井上委員／山田委員／西川委員／岡部委員

事務局：和田生活環境課長／二宮生活環境班長／雨宮主事

1. 開 会

2. あいさつ

会 長：内閣府が行った世論調査によりますと、科学技術の発展に伴って不安に感じる  
こととして、2 番目に回答が多かったのが「地球環境問題」でした。ごみの減量化  
というのも環境問題の大きなテーマですので、知恵を出し合って議論したいと思  
います。

3. 議題

(1) ごみの減量化策について

『ごみの減量化策』について事務局より説明

【質問・意見等】

会 長：全体的なごみ減量化策がある中で、今年度は食品ロス削減に焦点を当てた内容で  
すが、唐突に食品ロス削減の話が出てきたように思います。その経緯が分かるよ  
うな説明はありますか。

事務局：ごみ減量化策に関しては、以前から水分もうひとしぼり運動や生ごみ処理機の普  
及啓発等を引き続き行っていますが、食品ロス削減については今まで手を付けて  
こなかった内容ですので、今回新たに啓発を行うこととしました。

また、現状、1 人 1 日当たりのごみ排出量の目標を達成できておらず、食品ロス  
は 1 人 1 日当たりお茶碗一杯分の 134g が発生しており、134g 削減できれば目標  
を達成できるといった観点からも啓発を考えました。

委 員：今までのごみ減量化策の取組について少し説明してから、現在、力を入れている  
のが食品ロス削減ですと説明した方が町民にご理解いただけるのではないでしょ  
うか。

委 員：食品ロスについて、まだ食べられると思うかどうか人がによって違うので、主婦  
の方はイメージが付くと思いますが、男性だとイメージしづらいかもしれません。  
啓発活動にしたら細かすぎるような気がします。

委 員：ホームページに掲載されているエコ・クッキングレシピについて、材料にニンジ

ン20g やシソ 5 枚等とありますが、一般家庭では必要な分を少量だけ買うのは難しいです。食べ切れる分だけ買って、食べ切れる量だけ作るというのは分かっていますが、実際はそういかないのが難しいところです。心掛けは大事ですが。

事務局：エコ・クッキングのような調理法等を知らなかったりあまり意識していない人に意識付けすることが出来ればと思い、例としてレシピについて掲載しました。

委員：旬の食材を選ぶとありますが、エコ・クッキングのレシピが夏の食材を使った料理になっているため、今の季節に合わないと思います。

事務局：ごみ減量に効果的なレシピを選んだため、季節については配慮していませんでした。

委員：賞味期限を超えた食品は、見た目や臭いなどで個別に判断しましょうとありますが、若い世代は判断に迷うと思います。腐っているのは分かりますが、腐ってなくてもどの程度だと食べられなくなるのかが分かりません。

委員：同じ食品でも添加物が入っているかでも違いますね。

委員：賞味期限も消費期限と同じで過ぎたら食べない方が良さだろうと思って捨ててしまいます。

会長：そういう意味では、賞味期限と消費期限の違いを周知するのは効果があると思います。

地区回覧について、食品ロスが年間約 621 万トン発生していると記載されていますが、1 人 1 日当たりお茶碗 1 杯分などを入れた方がイメージしやすいと思います。

委員：年間約 621 万トンは大きく聞こえますが、1 人 1 日当たりお茶碗 1 杯分ですと小さく聞こえます。ごみ収集車何台分で例えると分かりやすいのではないのでしょうか。こんなに出ているんだと思うような数字だと効果があると思います。

委員：回覧に所管課の名前が入っていませんが、まだ修正はできますか。

事務局：まだ原案であるため、修正します。

委員：絵や図を入れた方がイメージしやすいと思います。

委員：回覧は見なければいけませんから、広報紙より効果があると思いますので、回覧で啓発するのは良いと思います。

委員：安くても余計なものは買わないようにしましょうとありますが、買ってしまって余ったものは漬物等の保存食にするといった方法もあります。

委員：高齢者は重いものを持って帰るのが嫌なので必要な量だけ買いますが、若い方は車を使うので無駄な買い物が多いのではないのでしょうか。若い方にそのようなことを訴えるようなことをした方が良いと思います。

委員：地産地消とありますが、二宮町ではそのようなシステムはできていますか。

事務局：地場産の野菜をスーパー等で売っているものもありますし、ラディアンでの朝市でも地場産のものがあると思います。

また、必ずしも二宮町としなくても圏域を広げて平塚市、小田原市、中井町等から買っていただいても地産地消になると思います。

委員：農家が路上で行っている無人販売でも地元の旬なものを買えます。

委員：こういった所で取り扱っているという紹介はできますか。

事務局：季節ものということもあり、なかなか難しいです。

## (2) 容器包装プラスチック組成分析について

『容器包装プラスチック組成分析』について事務局より説明

### 【質問・意見等】

委員：油やシャンプーの容器をきれいに洗うのは大変なため、出し方に困ってしまいます。

事務局：油の容器については、どの程度なら大丈夫なのか確認しておきます。シャンプーの容器は、一度水で流していただいて中に固形物がなければ大丈夫です。

委員：スナック菓子の袋はどうでしょうか。

事務局：洗うところまでやっていただかなくても、中にカスが残っていなければ大丈夫です。

委員：あまり細かいことを言うと他のごみが増えてしまうので、現状大丈夫なものはそのまま、すぐわないものだけを削除していく方が良いと思います。

委員：洗っても臭気が落ちないものはどうでしょうか。

事務局：臭気が付いている物はリサイクルによるしくありません。

委員：マグロが入っていたトレイ等の生臭い臭いが付いているものはリサイクルできないと聞いたことがあります。そういったものは洗っても臭いとれませんか。

委員：日本容器包装リサイクル協会では、不適合物が何割入ってはいけないといった基準があると思います。不適合物が混じると引き取ってくれなくなるとは思います。

事務局：引き渡したものは品質調査によりランク付けされますが、不適合物が多いと受け入れてもらえなくなる可能性があります。

委員：汚れが付着したものは洗いきれないものもあるため、なかなか減らないと思いますので、そういったものは可燃ごみに出してくださいとした方がスマートだと思います。

事務局：汚れた物を入れられて、問題ない物まで汚れてしまうのは避けたいところですので、そこをどう周知するかは広報での工夫次第です。

容器包装プラスチック以外のプラスチックを入れてしまっている人は、ごみ処理広域化前の分別区分である「その他の樹脂」の感覚で入れてしまっていると考えられるため、新しい分別が十分に浸透していないところもあると思います。

また、洗濯バサミなどは破碎ごみになりますが、破碎ごみは範囲が広くてわかりづらいので、プラスチックだからなんとなく容器包装プラスチックじゃないかと

いうことで混入していると思われまますので、ペットボトルを混入させないことと併せて周知していかないといけないと思っています。

会 長：容器包装以外のプラスチックが 7.5%と一番割合が多いですので、ここをターゲットにして周知することが一番早いと思います。

委 員：これをもっとはっきり分かりやすく周知してもらいたいです。

委 員：プラスチックは、ごみ処理広域化により以前より収集回数が増えています。以前は汚れが付着していると収集日までの間に臭ってしまうため洗っていたが、収集までの間隔が短いと臭わないため、洗わずに出してしまう人がいるのではないのでしょうか。町から強いメッセージを出せばルールを守ってくれると思います。ペットボトルもラベル、キャップを外していないものが結構出ています。

会 長：(仮称)大磯町リサイクルセンターに搬入を開始するまでに適合物のパーセンテージを上げるため PR していくという話ですが、広報はどうされますか。

事務局：容器包装プラスチックの分別の周知に関しては、継続して行う必要はあると思いますが、平成 30 年 4 月から搬入開始というタイミングもありますので、広報紙 1 月～3 月号の間で記事を掲載する予定となっています。

#### 4. 閉 会